

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（重点・新規項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領・観点別評価の円滑な実施 2 生徒1人1台学習用端末の円滑な利活用 3 「第2期 京都府教育振興プラン」「府立高校の在り方ビジョン」「魅力ある府立高校づくり推進基本計画」「スクール・ミッション」等に基づく学校経営及び「スクール・ポリシー」の趣旨を踏まえた、地域への貢献度を高める新しい学校づくりの構想 4 学校運営協議会の取組も踏まえた地域創生に資する人材育成 5 研修旅行の成功 6 寮の適正な運営及び下宿との連携 </div>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家庭との連携及び教育相談会議やケース会議等の実施による個に応じた支援で、寮、下宿を含めた生徒の生活を安定させている。 2 進路について、警備艇乗組員や消防、自衛隊の公務員も含め、ほとんどが学習内容を深化・発展させる分野に進んだ。また、国公立大学32年連続合格を始め、スポーツ推薦や水産・海洋関連分野以外を含めて、幅広い分野の大変質の高い進路実現を果たすことができた。 3 実践的な教育活動により、本校の持ち味を生かした研究活動に取り組むとともに、教育長表彰に61%該当、マリンマイスター顕彰対象生徒も卒業生の57%が該当（全国2,500人のうち上位10名に、本校から4名（特別表彰））するなど、レベルの高い資格を取得する生徒数が持続し、大会やコンテスト等への出場・入賞でも実績を積んでいる。 4 ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実に努めた。大会新記録樹立を達成した部活動もある他、複数の部活動で、府・近畿・全国大会及び国際大会出場や入賞の実績を重ねている。 5 生徒会活動並びに図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅を広げている。 6 宮津商工会議所及び海上保安学校との連携協定によるキャリア教育や、学校運営協議会による地域の魅力を感じさせる教育活動が継続できた。 7 地域魅力理解、感染症対策、学習用端末購入に伴う負担増を軽減する、新しいスタイルの研修旅行が実現できた。 8 キャリアプランニング・サポート（小、中学校への学習・体験等提供）並びにコラボ推進プログラム等に、府北部を中心とする多くの児童・生徒が参加し、本校教育内容への動機付け並びに水産・海洋分野への理解を深めてもらうことができた。 9 こころの講演会や人権講演会等外部講師による心に響く講演会が実施できた。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領・観点別評価及び生徒1人1台学習用端末活用の適切な実施並びに利活用 2 生徒、保護者等と教職員との信頼関係構築の一層の推進及び中学生、地域の方等から信頼され、憧れの対象となる人権感覚を備えた教員像の確立 3 地域連携の一層の推進と研究（探究）活動等の充実により、地域活性化意識を醸成する教育活動展開及び進路実績の継承 4 外部有識者の建言等を踏まえ、中学生及びその保護者等から求められる学校像の構築 5 業務の整理や効率化による諸取組の適切な実施及び働き方改革の推進 6 ボランティア活動や学校公開等、学校外とつながる取組の適切な実施や更新 7 下宿・家庭・寮での好ましい生活の支援 8 「スクール・ミッション」や地域ニーズに応え、中期経営計画を具現化する新しい教育内容の構築 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 普通・専門教育の充実と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒1人1台学習用端末の活用を基にした、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 (2) 授業（実習）改善と海洋プロジェクト等の充実により、進路の選択・決定における自己実現を支援する。 (3) 地域人材を活用したキャリア教育や外部機関等とのつながりを充実させることで、府北部活性化のために何ができるようになるかを展望させ、地域創生に結びつける。 (4) 思考力・判断力・表現力の醸成を基に、校内外の連携や課題の共有に努めながら、活動の質をより向上させる。 (5) 読書活動・図書館活動の充実を図る。 2 基本的な生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導提要の改訂を踏まえ、「生徒心得」等生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 (2) 道徳性や規範意識を大切に、人権感覚を前提にしながら、状況に応じた行動（ふるまい）ができる人間性を育む。 (3) 成年年齢引き下げを踏まえ、社会人としてより一層責任と自覚ある行動を促す。 3 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。 (2) 日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育む。また、主体的な行動を促し公共心を育成する。 (3) 互いの個性や多様性を認め合い、生かしながら共に学ぶ仲間づくりを進める。 4 安心・安全・衛生管理の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 実習（実習船含む）に常に緊張感を持って臨むとともに、点検・確認や円滑な情報伝達及び共有を怠らず、安全第一を徹底する。 (2) 生活全般において法やルールを守り、他者を思いやる気持ちを行動につなげる能力や態度を育成する。 (3) 感染症対策・対応を徹底するとともに、防災や減災、災害時への適切な対応についての意識を醸成する。 5 広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 <p>専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする迅速かつ積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。</p> 6 職場改革の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員それぞれが職務にやり甲斐を感じ、Well-beingの実現が図れるよう職場環境の改善を図る。 (2) DXの推進等を通じた働き方改革により、生徒と向き合える時間を確保するとともに、学校職員としての資質向上に努める。 (3) 職員がお互いを慮り合いストレスの軽減に務めるとともに、業務のスリム化や生産性の向上、共有・協働・分担、分掌等の枠にこだわらないOJT、スキルの伝承を推進する。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	本校の魅力を積極的に発信するとともに、在校生の満足度を高める。	・構想会議において、地域への貢献度を高めるとともに中学生に目指してもらえらる学校づくりを検討する。また、学校運営協議会の活性化に努め、外部の方々との意見集約をおこないながら新しい学校づくりの検討を進める。	B	B	学科部長・コース主任会議を中心に「キャリアアップランニング・サポート」や「コロナ推進プログラム」の在り方や各種行事・イベント参加・広報の仕方について検討を進め実施した。また、学校運営協議会は、地域の観光や金融ビジネスに精通する方2名を新たに迎え、地域に求められる学校の在り方や人材育成について議論を深めた。 今年度は新たな方向性として、行事主催者に実施要項の作成に合わせ、報道機関宛の広報資料の作成をしていただき、タイムリーな広報活動をおこなった。今後も学校全体で積極的な広報活動に努める。
		・報道機関への広報回数を増やし、タイムリーな新聞掲載を目指す。	C		
	職場環境の改善を図るため、働き方改革を推進する。	・業務のスリム化や生産性の向上をおこない「働きやすさ」「働きがい」の向上を図る。	B	B	前年度と比較して時間外労働時間は、少しずつ減少傾向にある。衛生委員会が月に1回設定している「思いやり週間」の取組を進めながら、ワーク・ライフ・バランスを見直し「働きやすさ」や「働きがい」を感じられる職場環境に今後も努める。
総務企画部	専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、PRする。	・「ホームページ・広報資料・学校説明会」を軸に、受け手（保護者、中学生等）を意識した内容の精選やICT化等を図りながら、本校の魅力を効果的に発信する。	A	A	新規にInstagramでの広報活動を取り入れた。
	系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。	・系統的な人権教育を推進するために、次の4項目を掲げる。 1 計画的な人権学習(5回)・人権講演会(4回)の実施 2 人権だよりの発行(7回) 3 文化委員会における人権啓発の取組 4 道徳教育取組まとめ	B	B	<実施状況> ①人権学習3回、人権講演会2回 ②人権だより発行4回 ③オッドソックスデイ 人権学習及び講演会は、例年と同じテーマで予定どおりに実施した。
教務部	カリキュラム・マネジメントの推進により教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図る。	・学習指導要領に基づき、指導と評価の一体化を目指した年間学習指導計画や指導シラバスを編成し、各科目の円滑な授業進行を目指す。	B	B	カリキュラム・マネジメントの一環として、教科担当を対象に「教科指導に関するアンケート」を年2回、9月と1月に実施。今後は、来年度に向けた指導計画やシラバスの改善と更新を進め、来年度のより円滑な教科指導に繋げたい。
	学習指導要領に基づき、より適切な観点別評価の実施と教科指導力の向上を図る。	・公開、研究授業への参加や、より適切な観点別評価等の実施を目的とした研修を実施し、教員の指導力と生徒の学力向上を目指す。 1 公開、研究授業への参加1人あたり3回以上。 2 観点別評価に関する研修や資料等の情報提供4回以上。	A	A	年間2回の公開研究授業では教員1人当たり4.2回参観、教員の参加率は95%だった。今後も多くの参観で、指導と評価の一体化を推進したい。 観点別評価の研修を兼ねた教科主任会議を1学期に2回、2学期に2回、3学期に2回実施した。今後もより適切な学習評価に向けて、研修等を推進したい。
	端末機器等のICT活用を推進し、社会のデジタル化への対応力を高めるとともに、自立した学習者の育成に努める。	・教職員のICT機器の活用を推進することで、生徒の授業理解を促し、学力向上に繋げる。 1 ICT機器活用に関わる参集型研修やメンション6回以上。 2 定期考査前の学習時間120分以上/日を目標に、学習時間調査を学年部や学科・コース、部活動等で指導し、自ら学習する生徒の増大を目指す。	B	B	教職員を対象に採点ナビの参集型研修を1回、メンションを3回実施した。今後はiPadの基本操作に関わるメンションや研修を検討し、実施に繋げたい。 今後は学習時間の確保に加え、学習方法の具体的な指導についても検討し、学力伸長を図りたい。
	読書活動を通してことばの力を高め、豊かな思考力を醸成する。	・読書活動を推進して生徒の健全な成長を促すことで、学校生活をより充実したものとする。 1 司書主催で、教職員に対する働きかけ（教職員向け図書館だより・図書館研修等）を5回以上行う。 2 図書室で1冊以上本を借りた生徒の割合85%以上。	A	A	教職員対象の図書室オリエンテーションやLibraryの発行等を5回実施した。今後は読書活動関連の動画作成等を通じて教職員への働きかけを工夫する。 今後はより身近な図書室及び図書活動を目指すとともに、図書委員会の活動をより活性化して貸し出し数を伸ばしたい。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
生徒指導部	学校生活の中での基本的なルールや規律を守る意識の醸成を図る。	・ 8時25分までの登校を促し、基本的な部分から生徒指導を見直していく。	B	B	年間を通じて生徒昇降口での声かけ、指導を行った結果始業時に登校できない生徒は大きく減少した。	
		・ 頭髪・服装指導を強化するとともに、指導の意義についても理解させる。	D	D	C	目標とした人数を達成することはできなかった。しかし指導の内容は大半が靴下、Tシャツなどの軽微なものであり、指導を継続していることで校内の規律の乱れの歯止めにより一定の効果があつたと感じている。次年度も指導を継続し、指導人数の減少に努めたい。
		・ 授業規律確保のための指導の効率化を図り、学力向上・安心した学校生活の確保に努める。	C	D		目標としていた人数は達成できなかったが、生徒に授業の規律を意識させるのに一定の効果があつた。次年度はさらに指導人数を減らせるように継続して取り組んでいきたい。
進路指導部	学年部及び学科・コースと連携を図り、進路実現に向けて統一した指導を行い、希望進路を実現させる。	・ 進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を行い、希望進路を実現させる。	B	B	B	検討会議を行い、生徒の進路選択の可能性について、学年、学科・コース、進路指導部の中で共通理解が持てるようにした。
保健部	学校生活を「安心・安全」に送ることができるよう継続的な感染予防を定着させる。	・ 各分掌と協力し学校生活の中での実施可能な感染症対策の定着を目指す。健康観察、出欠席などの情報収集を適切に行い、生徒の健康状態の把握に努める。	A	A		2学期以降も感染症拡大防止や予防に努めた。今後も継続的に感染予防の周知を促していく。
	施設点検及び清掃時の点検を定期的に行い、改善が必要な箇所の早期発見に努め、学校の衛生環境の充実を図る。	・ 事務部と連携し、定期的な校内点検を行う。(月1回を目標とする。)	B	B	A	事務部と連携して計画的に実施。清掃時間帯に衛生環境の点検も継続しておこなう。
	支援を必要とする生徒に対して、情報のとりまとめを行い関係分掌と連携した支援に努める。	・ ケース会議や教育相談会議の開催を迅速にし、学年部や関係分掌及びSCと情報を共有することで、個別の支援が必要な生徒の支援内容の充実を図る。	A	A		2学期以降会議の頻度が増え、多くの生徒の学校生活に心配も感じられたが、学年部等関係分掌と連携を取ることによって、学校生活に前向きに取り組める生徒を見ることができた。
事務部	災害時等への適切な対応ができるように日常の備えの充実を図る。	・ 防災教育等への協力・支援を行い、また、日常の施設設備の適切な管理を行うことで防災や減災へつなげる。	C	C		施設設備の管理面では、自主点検と専門業者による法定点検とあわせて毎月管理ができた。防災教育の視点においては、限られた予算内で必要な財政支援ができた。
	スキルの向上と職場環境の改善をねらいとして研修の推進を図る。	・ 京都府総合教育センター研修や校内研修等を積極的に受講し、職員の資質向上につなげ、府民サービスの向上を図る。	C	C	C	年間を通して、事務部職員は、一人1回以上の研修を受けることができた。今後、さまざまな分野の研修を受け、事務部として業務の幅を広げることが課題である。
みずなぎ	全ての実習の安全・安心を徹底する。	・ 実習時に集合操練、救急コール携帯の徹底を図る。	C	C		取組の成果として、長期実習で集合操練実施、救急コール携帯の確認ができた。今後の課題として、日帰り実習では時間なく集合操練をおこなえなかった。今後時間の確保の検討をおこなうことが必要だと思われる。
	小・中学生体験乗船の増大を目指す。	・ 組織・運営と打ち合わせ体験乗船を増加させる。	C	C	C	今年度もたくさんの体験乗船があり、乗船児童・生徒の満足度も高い。今後の課題としては、法改正により、乗船人数の変更、乗船期間が限られるため、今まで以上の調整が必要である。
	みずなぎ関連の広報活動に努める。	・ みずなぎ船員のホームページ更新回数を増やす。	C	C		年度当初に、月4回以上を目標にし、8ヶ月で45回の発信をおこなった。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
寮・下宿運営部	寮生の生活環境・意識改善を行う。	・寮の定員増加に伴い窮屈になりがちな生活を、少しでも暮らしやすくなるよう工夫するとともに、寮生が主体となり新しいイベントを企画・実施することで、集団における協同の精神を育む。	A	A	・黒潮寮生の生活環境を改善する取組として、食堂へのドリンクサーバーの設置、貴重品管理ボックスの導入を行った。今後も管理指導の徹底や管理方法の模索を継続していかねばならない。寮生が主体となったイベント開催では、海洋祭への模擬店や肝試しなど、さまざまな取組を開催する中で、主体性や協調性の醸成を図ることができた。	
	寮生・下宿生の部活動参加を推進する。	・部活動顧問と連携し、寮生・下宿生の部活動での活躍を推進する。	B	B	B	ほぼすべての生徒が前向きに部活動に参加した。長期休業中の早期帰省生徒への状況確認及び指導、また、日ごろから参加状況の悪い生徒への指導を継続しておこなっており、今後も指導の継続により状況を維持していきたい。一部、部活動に対して前向きな姿勢ではない生徒があり、指導しなければならないこともあった。
	舎監の勤務環境改善に努める。	・舎監が舎監室等で少しでも心を落ち着けて休養がとれるよう工夫する。	B	B	舎監体制が十分に整わない中、舎監に入る先生の負担軽減を目的にロボット掃除機を導入した。また、舎監の先生が舎監室で少しでも過ごしやすくなるように、い草の設置、寝具の更新をおこなったが、まだ、舎監の負担は大きく舎監に入って体調を崩される教員も少なくない。今後もできる限りの対策が必要である。	
第1学年部	2年次以降の各学科・コースでの専門的な学習に必要な基礎学力や学習習慣を定着させる。	・学力定着のために、定期考査前の家庭学習を徹底する。	C	C	考査前には毎日学習時間調査の集計をおこない、それをもとにして生徒に応じた声掛けを実施した。	
	生徒と丁寧なコミュニケーションを図ることで、問題事象等を未然に防ぐ。	・普段から生徒を観察し、適切な声掛け・聞き取り・指導を行う。	B	B	C	1人の生徒につき最低3回の面談を実施した。 (4月当初・6月面談週間・10月面談週間) 2月に進級や進路に関する面談を実施した。
	専門学科で学ぶ生徒としての自己肯定感を高める。	・資格(検定)の取得(合格)を積極的に推し進める。	C	C	一人当たりの平均資格取得数が2個を超えた。	
第2学年部	1 進路の選択・決定における自己実現を支援する。	・学力向上の取組を行い、成績上位者数の増加を目指す。	C	C	学年の取組として、欠点があった生徒への学年での学習会や考査前の朝学習を実施した。学年末で上位層が伸びる取組を実施していきたい。	
	2 学校生活を通して、社会人として必要な資質やコミュニケーション力を身に付けさせる。	・2年学年末までに希望進路の決定100%を目指す。	C	C	C	学年末までに進路希望先の決定に向けた取組をおこなった。(進路に向けた学年集会、面談等)
		・資格や検定試験への取組を推進する。	D	D	資格試験受験を積極的に受検し、合格するように対策を講じていく。	
第3学年部	希望進路の実現を目指す。	・関係分掌・学科・コース等と連携しながら、希望進路を実現させる。	B	B	学年部として進路担当者と密な連携を図り、生徒への事前指導・指導内容等の検討を深める重要性を再認識した。	
	学力向上の取組を進める。	・学科、コース、各教科と連携をし成績優秀者の増加を目指すとともに、基礎学力の底上げをはかる。	D	D	C	進路決定後、気が緩み二期で全体的に大幅に成績が低下した。学年末考査に向けて立て直を試みた。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
BYOD運営部	1 一人一台学習用端末導入に係るハード面、ソフト面の環境整備を行い、ICTを円滑に利活用できる学校づくりに取り組む。 2 ICTの利点と危険性を理解し、教職員が教育の質の向上に利活用できる知識と技能の向上に取り組む。	・ 端末活用ガイドブックの改善等、生徒が端末を安心・安全に利活用できる環境整備に取り組む。	A	A	1年生へ学習端末を配布する際に活用ガイドブックを配布し、担当から説明をおこなった。その取組により、端末やアカウントの不正利用を防げている。 新転任の先生方への端末配布、本校での端末の活用方法を周知した。またアプリ等の不具合やアップデートについて、個別対応をおこなった。
		・ BYOD運営部の定期会議で、教育の質の向上や働き方改革に役立つ研修を行い、教職員のICT利活用に関する資質と能力を計画的に向上させる。	B	B	
海洋科学科	コロナ禍以前の教育活動を更新するとともに、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させ、授業・実習に緊張感を持って臨む態度や姿勢を育成する。	・ 授業・実習を大切にし、学習習慣を身に付けさせる。 ・ 資格・検定試験の受験者を増やす。	A	A	3年生においては、研究成果発表会学科予選を保護者等にも公開することで、1月末まで緊張感を保つことができた。 コロナ禍を機に資格試験受験者数が大幅に減少した状況を踏まえ、海洋科学科における資格取得計画の見直しを進めた。特に、「課題研究」において、長期休業中に国家資格試験の過去問題に取り組ませることで、生徒の学びに向かう力を喚起することができた。 例年以上に校外活動への参加意欲は高かった。校外活動参加記録に関するポートフォリオを作成させ、上級学校出願時の資料としての活用が可能になった。
	高校卒業後の進路を見据えた自己の在り方生き方、ライフプラン等を描かせる。	・ 「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」を意識させる。	A	A	
	専門性の高い資格・検定に挑戦することにより、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせるとともに、専門性の涵養に努める。	ICT活用や補習等を推進し、自ら学ぶ姿勢を育成する。 〔資格毎数値目標〕*コース生徒の取得人数 海技士（三級3名、四級5名）、第二級海上特殊無線技士10名 小型船舶操縦士（一級6名、二級10名）、漁業技術検定13名	B	B	
航海船舶コース	生徒の専門性の向上に努め、関連進路先への就職、進学を目指す。	・ 海洋技術コースに関連する資格取得・検定合格を通じて、生徒の専門的な知識や技術の習得を図る。また、面談等をとおして関連進路先への就職・進学率の向上を図る。	B	B	全員受験の関連資格（技能講習等を除く）の取組において、家庭学習習慣に課題のある生徒への指導が課題となった。 また、関連進路先への就職・進学については80%と高い値を示し、国土交通省や地元企業と連携した土木工事現場見学会の積極的な実施等が影響したものと思われる。今後は地元企業との連携を深め、地元企業への就職に更に力を入れていきたい。
	環境保全及び地域貢献に努める。	・ 丹後半島沿岸海域の環境保全及び地域振興を目標とした活動を展開する。	A	A	
	学習環境の整備に努める。	・ 安全確保を最優先するため、実習に関わる施設・設備等を整備する。	C	C	
栽培環境コース	学習した専門的な知識と技術を定着させ、社会で活躍できる資質と能力を育成する。	・ 増養殖に関わる資格取得を推進し、知識・技術の習得に繋げる。 （小型船舶1級・2級、栽培検定1級・2級、漁業技術検定、潜水士等）	C	C	平均取得数を上昇させる取組をおこない、今後も資格取得の推進をおこなう。 5月に3年コース面談、9月に2年コース面談をそれぞれ実施した。2年生の進路先が未定の生徒が複数名いたため、キャリア教育拡充の必要がある。 総合実習・課題研究において、リージョナルフィッシュ（株）、砂後建設（株）の職員を外部講師にお招きした。リージョナルフィッシュ（株）には、2年集中実習にてゲノム編集の講義や3年課題研究にてディラピアの提供および研究の指導をお世話になった。
	個に応じた指導を行い、希望進路を実現させる。	・ コース面談を行い、希望進路や生徒個々の状況を把握し、進路実現や課題解決に必要な指導や助言を実施する。	C	C	
	先進的な増養殖技術や、ICTを活用したスマート水産業について学習させ、次世代を担うために必要な知識と技術を習得させる。	・ 外部講師を招いた学習や、プログラミング及びICT機器を用いた増養殖技術について学習する。	C	C	

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
食品経済コース	外部との関わりから生徒の創造性、自己有用感を育む。	・コンテスト・イベント等に参加し、自己有用感、主体性を育む。	B	B		・ふくしまチャレンジカップ ・和菓子甲子園 ・うまいもん甲子園 ・食品技能コンテスト ・ばん馬キャラ弁コンテスト ・高校生料理コンクール ・まいづる魚まつり ・大阪・関西万博 ・京都能力開発短期大学校 学校祭 ・府民交流フェスタ 以上のコンテストやイベント等への参加により、自己有用感を育むことにつながった。
	関係機関との連携を推進するとともに、地域活性化につなげる。	・地元の低利用資源を活用した本校での高校生レストランを実施する。	C	C	B	宮津会場での高校生レストランができなくなり、代替となる会場を検討するところまでいかず、回数が伸びなかった。
	コース内での研修を十分に行い、生徒の希望進路実現を目指す。	・外部と連携し、知識・技能の伝承を行う。 ・関連分野への進路実現を推進する。	B	B		・和久傳久美浜工房 ・京都府漁業士会 ・自衛隊四術科 ・とり松 ・大和学園（日本料理） 今後もコース内での研修に努めたい。 今後もコースの魅力の発信に努め、関連分野での進路実現が増えるようにしていきたい。
国語科	基礎学力の定着と、国語に対する関心・意欲を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	・前年度の漢字検定合格率26.7%から、今年度は合格率を高められるよう、問題集等の利用を促し、練習問題プリントの配布や模擬試験などで、モチベーションを高める。また、四字熟語等は「現代の国語」で小テストを行う。 ・生涯にわたり読書活動に親しむ態度を養うため、読書活動を推進する取組を実施する。オリエンテーションを充実させ、図書館の積極的な利用、読書活動に関わる課題、教員による推薦書の紹介、生徒が本を紹介する活動を取り入れる。学期毎に読書アンケートを取る。	C	B	B	今年度は漢字検定と関連付けた授業を実施することができず、次年度の課題となった。 図書館オリエンテーション、春と夏の読書レポート、本の推薦動画、ビブリオバトル等を実施した。読書が苦手という生徒に向けても、適した本を薦めることで読書の機会を増やすことができた。
地歴・公民科	地歴・公民科に対する関心・意欲・態度を醸成することで、国際社会で生きる日本人としての意識を涵養し、確かな学力を身に付けさせる。そのために、思考力・判断力・表現力を高める指導力を向上させ、主体的・対話的な学びにつながる授業改善を行う。	・社会に関する関心を高め、教科内容と関連付けて考える姿勢を培うため、積極的に時事問題を授業に取り上げ、ニュース検定に繋げる。 ・小テスト実施回数を増やし、生徒の知識理解の定着に努める。	C	C	B	授業で時事問題を扱い、検定への関心を高める指導をおこない、各種コンクールで受賞者を輩出することができた。 生徒に、物事を考察させるような課題を出した。
数学科	生徒一人ひとりに合わせた指導と学習形態を確立することで基礎学力の定着に努め、思考力・判断力・表現力を伸ばすとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 数学検定の受検を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。	・以下の4項目の達成を目指す。 1 成績不認定生徒0名 2 家庭学習を習慣化させるための指導法の確立 3 観点別評価の年次進行に備えて、教科内での情報の共有 4 数学検定の合格率の向上	B	B	B	数学検定に向けた日々の演習課題を充実させ、基礎学力の向上に努めることができた。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
理科	<p>1 理科の授業を通じて論理的な思考力・判断力の醸成に努める。</p> <p>2 iPadを利用した授業を構築する。</p> <p>3 観点別評価の評価材料の収集に努める。</p>	<p>1 教科書を読ませ、記述された事柄から考えられる共通性や導かれた法則を理解させ、それらを用いて科学的な判断ができるように導く。</p> <p>2 実験結果をiPadで記録（写真撮影など）させ、それを用いてiPadでレポートを作成させて提出させる。</p> <p>3 実験や観察の際に、予想やなぜそのような結果になったのかを考えたり、意見交換したりする場面を設定し、コミュニケーション能力や論理的思考力を育成する。</p> <p>4 復習課題としてスタディサプリの活用を行う。</p> <p>5 教科書のQRコードから見る事ができる実験動画等を活用し、個別学習を行う時間を設ける。</p>	B B B	<p>生徒の計算力や文章を読む方に課題があり、テストの際に質問に対する正しい答え方ができない状況がみられた。</p> <p>実験は生物基礎や物理基礎、化学の授業で複数回取り組んだ。結果をiPadのカメラで撮影させ、スケッチはそれを見ながら書かせたり、レポート作成に活用させたりすることができた。化学では、実験そのものをカメラで記録させた。</p> <p>スタディサプリ活用は3年生海洋科学科生徒向けに夏休み中での活用指示や、冬休みの課題とした。教科書のQRコード利用は、実施が難しい実験や試薬がなくて実施できない実験や、分子の形を立体的につかませるアニメーションの視聴に少し活用できた。</p>
		<p>・観点別評価に向けて定期考査以外の評価材料（ノート提出、課題提出、レポート提出など）を増やす。</p>	A	<p>提出物の実施回数は、春休み、夏休み、冬休みに課すものも含めて、目標の回数に達することができた。</p> <p>発展講座の生徒から、ミニテストを定期的の実施してほしいと要望があり検討をおこなった。</p>
保健体育科	<p>安全に授業を進めるとともに、進路実現ができるたくましい生徒を育成するため、体力向上を目指す。</p>	<p>・体育の授業中における事故・ケガを減少させる。</p>	B B	<p>準備体操、整理体操、安全に対する生徒への意識付け等、各種目担当者が工夫して取り組めた。</p>
	<p>教科内で研修を行い教員の資質向上を目指す。</p>	<p>・定期的に研修会を行う。</p>	B B	<p>研究協議会等の研修会の情報伝達会を複数回実施。良い機会になったので次年度も計画的に実施したい。</p>
芸術科 (美術)	<p>生徒1人ひとりが作品と向き合う中で、高い意識をもって制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に努める。</p>	<p>・計画的に制作活動に取り組ませ、作品を期限内に完成させ、提出させる。</p>	B B B	<p>年間を通して期限内提出の指導を継続した。作品提出状況は、概ね良好であった。</p>
家庭科	<p>生活的自立の能力を形成するために、自ら考え判断できる力と、他者と共存できる力を育成する。</p>	<p>・家庭生活に関する基礎知識の定着を目指し、自立に向けた対話的・体験的に学ばせる取組の機会を多く設定し、学習内容の定着をはかる。</p>	B B B	<p>継続的な学びの定着に向けて体験的な学習活動を重視し、積極的に調理実習や作品作りをおこなった。</p>
英語科	<p>生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育み、基礎力の定着を図るとともに、4技能5領域を意識した学習指導を行う。</p>	<p>・プレゼンテーション・スピーキングテストなど、パフォーマンス課題を課すことにより、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。</p>	B A A	<p>少人数制クラスのメリットを生かして、ALTと1対1で問答する形式に変更した。1学期には「自己紹介」と英検準2級の描写問題、2学期には「近い未来の予定」と「お薦めの映画」をテーマに実施した。</p>
		<p>・4技能5領域の英語力をバランス良く高めるため、実用英語技能検定の受検を促し、合格者数の増加を図る。</p>	A	<p>1次試験合格者に対する面接練習を丁寧におこなった。</p>